

最近の日本株の下落について

円高進行や半導体関連株の先行き懸念が下げを主導

2024年7月26日

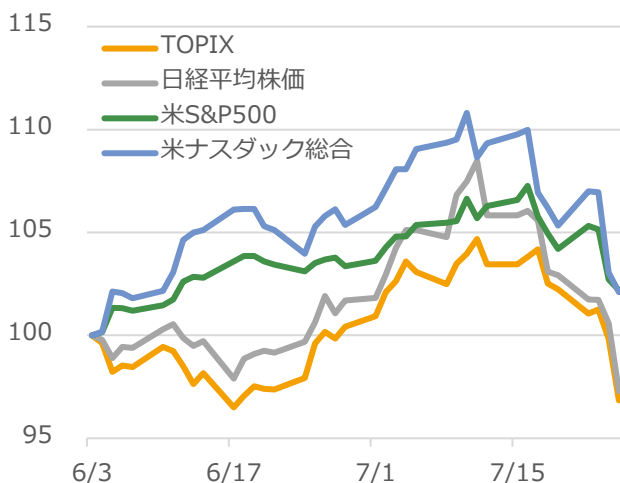
史上最高値更新から一転急反落

7月11日に史上最高値を更新した後、日経平均株価やTOPIXは急反落しています。11日に6月米消費者物価指数が発表された後、円買い介入が実施されたと見られ急速に円高が進行しました。また、来週30-31日（水）の日銀金融政策決定会合ならびに米FOMC（米国連邦公開市場委員会）で、日本は金融引き締め方向、米国は金融緩和方向への政策修正の可能性があることが円高に拍車をかけています。さらには、米国が中国への半導体製造装置の輸出規制を強化するとの報道を受けて半導体関連株が急落しており、年初からの株価上昇を主導してきた銘柄が利益確定と見られる売りで大幅に下落しています。

しかし、日本企業の利益成長率は他国を大きく上回っている（下右図）ほか、過去最高を大幅に更新するハイペースの自社株買いや新NISA（少額投資非課税制度）による個人投資家の資金流入など、日本株の非常に良好な需給環境に変化はありません。今後については、①過度な円安の修正は輸入物価上昇を起点としたインフレを抑制し、実質賃金の上昇や個人消費の回復が期待されること、②金融政策の結果発表後は不透明感の解消から相場が反転する傾向があること、③日本の追加利上げの見送りによる急速な円高進行一服や米国の利下げ（利下げの示唆）による米国株の反発は日本株の上昇材料となりうることなどから、金融政策の結果発表や為替市場の落ち着きを契機に株価は急速に反発する可能性があると考えています。

日米株価指数の推移

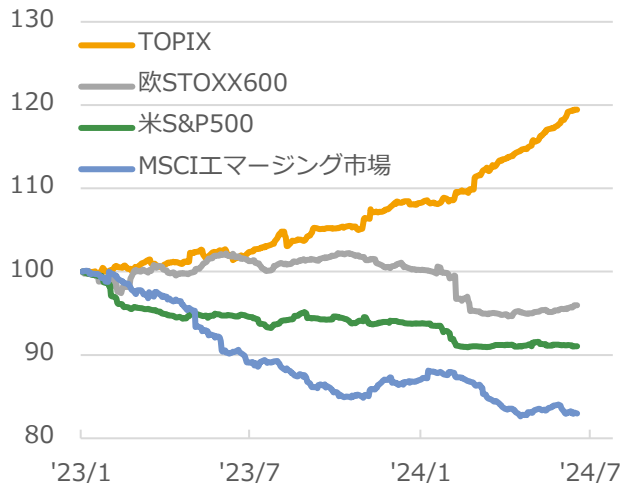
(2024年6月初=100) (2024年6月初～2024年7月25日)



(出所) ブルームバーグより大和アセット作成

各国の主要株価指数の予想EPS（1株当たり利益）

(2023年1月初=100) (2023年1月初～2024年7月25日)



※12カ月先予想、現地通貨ベース、MSCIエマージング市場は米ドル建て

(出所) ブルームバーグより大和アセット作成

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡りする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management